

## 科学部が学校を代表して「群馬県SSH等合同成果発表会」に参加！

9月14日(土)に開催された「群馬県SSH等合同成果発表会」に、本校を代表して科学部の生徒たちが参加・発表をしました。この発表会は、SSHの課題研究や科学系部活動で研究を行っている県内の高校生が、その成果を発表し、研究者や他校の生徒らから指導・助言を受けるというものです。そこで、今回発表を行った科学部1年生の藤本君と、参加した科学部員の感想を皆さんにお届けします。

来年度からは本校でも課題研究で優秀とされた生徒をはじめ、一般生徒からの発表や参加も予定していますので、今後に向けての参考にしましょう！

### 「Q」が「A」になっていく楽しさ

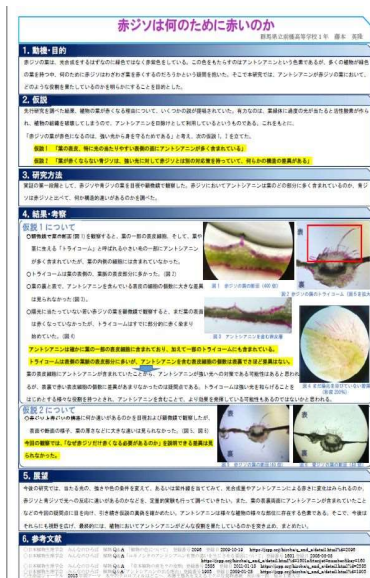
1年 藤本英隆 (科学部)

中学生の時にテレビで目にした、植物を赤くする色素「アントシアニン」について当時夏休みの研究で取り組んだことをきっかけに、高校の科学部でもその研究をさらに深めてきた。今回は特に対象を赤ジソに絞り「植物におけるアントシアニンの役割」について研究を行ってきたが、それを通して、ふとした疑問に対して思考し、検証していく楽しさを感じるとともに、研究として形にする難しさを実感した。

また今回はポスターセッションによる発表だったが、他者に伝える苦勞、整合性の取れた論を作り上げる大変さ、自身の研究を客観的に捉える難しさを非常に強く感じた。知識・技術・発表、あらゆる面において自身の力の至らなさを改めて知り悔しく思うとともに、「もっともっと努力しなければ」と強く感じた。

ただそれ以上に、色々な人々に見て聞いてもらえる中で自身の成果を伝えることができ、指摘・助言を含め専門家とお話することもでき、自分の手で拙いながらも発表までやり遂げることができた。本当に苦勞も緊張もしたけれど、それを大きく超える貴重な経験ができたと感じている。この経験を生かすことで、実験方法や着眼点を再考することは勿論であるが、何より知識拡充のためにも普段の勉強・研究へと進むエネルギーへと変え、「湧き上がる好奇心(Q)を探究(A)する楽しさ」をより一層追求していきたい。

#### ↓藤本君の発表ポスター



### 科学を愛する高校生がこんなにも・・・

1年 江原蓮・江口誠・木村友哉 (科学部)

今回同じ高校生の発表を目にして、自分が考えなかった着眼点や考え方に触れ、視野が広がったように思う。テーマ選び・研究方法・まとめ方、PCやスマホアプリを用いた発表等、様々な点が参考になったことは勿論、熱意を込めて毅然として話す姿を見て、同じ高校生ながら皆立派な研究者のように感じた。

そして何より、百人を優に超える高校生達から溢れる熱量に触れ、同じ科学を愛する高校生がこんなにも沢山いるのだと感じられたことが、最も貴重な経験になった。先輩から後輩へと研究・熱意を継いでいくような姿、仲間と全力で取り組んできた思い、一人一人の課題に向かう意識をまざまざと感じる時間だった。今回得た刺激を学校に持ち帰り、科学部の活動でも課題研究でも生かし、そして次こそは自分も発表したい、自分の研究を知ってほしい、と強く感じている。